

ようにする。肥料はなににもなし。あとは草取りと水くれだけ。サイパンの雨期は6月からで、その前は水をくれないと育たない。その水くれが大変なので、今はスプリンクラーを使っている。

こういうやり方で、いいイモができるというところが面白い。高うね栽培を理想とする日本とは、まるで発想が違う。

乾期には日照りに気をつけなければならないし、雨期には強いスコールと台風から表土を守らなければならないからであろう。

南洋の日射しは夕方近くになっても、まだ強い。家の中に戻って、またサツマイモの話を聞く。

ガラパンのスーパーマーケットで、イモ類の値段を聞き損なっていたので、こんどはそれを聞く。バーモデスさんは自園の生産物はなんでもガラパンの青果市場へ出している。そのため相場に明るく、つぎのように話してくれた。

サイパンで一番高級なイモはヤマイモ。市場価格で1ポンドが1ドル25セント。ヤマイモはふだんは食べない。誕生日とかお祭りなどの日に使う。次はタロイモ。いろんな種類があるが、1ポンド、1ドル。一番安いのがサツマイモ。3か月でできるものもあれば、6か月かかるものもある。肉の色も白、紫、黄、オレンジと色々ある。

ただ、どれもヤマイモの半値で、1ポンドが60セント。

ヤマイモは骨付きの牛肉と一緒に煮る。サツマイモはココナツミルクと煮るか、天ぷら、焼き芋。

ジャガイモはここでは作らない。アメリカから輸入している。値段はサツマイモより安

い。1ポンドにつき、10セントは安い。でも現地の者は買わない。ジャガイモを食べる習慣がなかったから、食べたいと思わない。あれはホテル用かアメリカ人用だ。

こうした話になるときりがない。ただ時間に限りがあるので、また車でホテルに送ってもらった。それにしてもサイパンには無いとされていたサツマイモ畑を心ゆくまで見せてもらうことができ、初の南洋行きはすばらしい旅になった。

常識法話

◆ 法 話 ◆

「法話」とは、本来は、宗教界のありがたいお話である。云うなれば、「お説教」である。ありがたいお話ならば、あらためてお説教されることはあるまいに、重ねて、再三再四にわたって、繰り返して、お説教されるところに、法話が必要とされる法話の法話たる所以がある。

筆者が、「常識法話」を思いついてから、もうだいぶ過ぎている。これも、宗教界の用語と同じように、国の憲法をはじめ、基礎的な法律用語について、分っているようで、さっぱり国民生活の中で理解されていないので、あらためて、これを取り上げることによって理解を深め、知識を広める結果となろうと思ったからである。たとえば、会社の社員といえど誰もがその会社に勤めている人のことと思っているのだが、法律的には社員＝株主で、勤め人は従業員だという説明をしたら「それは知らなかった」との反響は多かった。

病院が医者のためにあってはならないように、裁判・検察・弁護の制度もまた、これらの特殊世界の専門家たちのものではあってはならない。法律は一般市民のために存在すると思うのである。